



和歌山大学教職大学院

大学院教育学研究科教職開発専攻

学校教育の未来を担うリーダーを養成します!

5つの 特色

3つの ポリシー

ディプロマ・
ポリシー

カリキュラム・
ポリシー

アドミッション・
ポリシー

1 研究者教員・実務家教員の協働による充実の指導体制
専門分野の理論と実践の融合を図ってきた大学教員だけでなく、教育実践が全国レベルで評価されてきた先生、和歌山県下で現職教員の指導で活躍している先生、和歌山県下で先進的な学校経営を行ってきた校長経験者などの実務家教員を加えた充実の指導体制を備えています。また、院生のテーマや学習状況に応じて、少人数できめ細やかな指導を行っています。

2 和歌山県特有の課題に応じたカリキュラム
「和歌山県における家庭・地域と連携した学校づくり」、「小規模校支援」など和歌山県の課題に応じたカリキュラム構成で、地域の課題について理解を深め、解決に取り組むための視座を学習します。



小規模校実習

3 現場と連携し、理論と実践を融合する実践的カリキュラム
1年目は毎週1回インターンシップに取り組み、現場の指導者と大学院教員とのカンファレンスを行うことで、大学院で学んだ理論と現場の課題を融合させ、より実践的な学習と省察に取り組みます。



理論と現場経験とフィールドワークの結果を統合する話し合い

4 福祉分野との統合による子どもの全体的な支援を考えるコンテンツ
特別支援教育だけにとどまらず、福祉分野の専門家による「教育と福祉の連携」、「問題行動と保護者との連携」などの科目によって、子どもの育ちや環境を全体的な視点で考え、学校と福祉が連携した支援体制のあり方を考えるコンテンツを用意しています。

5 Society5.0に向けた学習環境を実現するアプローチ
ほとんどの授業が研究者と実務家教員等によるTTで行われ、アクティブ・ラーニングやICTの積極的活用などを実際に経験しながら、Society5.0に向けた学習環境づくりについて考えを深めるとともに、それらを準備する実践的態度を養います。



プログラミングの授業の様子

和歌山大学の目的及び使命並びに教育学研究科の目的に基づき、研究科の専門教育を通して、「学び続ける教師」として次の目標に到達していると認められる者に教職修士（専門職）の学位を授与する。

- 高度な専門性と研究力
 - 学校教育において教育活動を行うための高度な専門的知識や実践力を身につけている。
 - 学校や教育実践に寄与するために、課題解決に取り組むための力量を有している。
 - 自律的に課題を発見・解決する柔軟な思考力や研究遂行力を身につけている。
 - 短期的・長期的な視野に立ち、反省的実践者としての省察に基づいて教育活動の改善に取り組むための力量を有している。
- 協働性と倫理性
 - 基本的人権を擁護し、他者と関わりながら教育活動を高度に展開するための基盤を有している。
 - 研究倫理を順守し、教育の発展に寄与する高度な研究活動を行う基盤を有している。
- 地域への関心とグローバル視点
 - 地域をグローバルな視点から理解し、地域社会と協調的な関係を構築するための高度な専門的知識や技能を身につけている。

【教育課程編成の視点と内容】

- 「学び続ける教師」として求められる高度な専門的知識や技能を身につけるため、体系的・系統的なカリキュラムを設定する。その内容は、専攻共通科目、コース専門科目、実習科目、実習関連科目に分類する。
- 教育課程の編成に際しては、以下の内容を視野に入れる。
 - 最新の専門理論・技術と実践の架橋
 - 地域の学校・子どもの実態、必要性に応じた実践を行うための理論・技術の修得
 - 時代が求める教育を地域に応じて展開できる理論の修得と実践

【求める学生像】

教育学研究科では、「学び続ける教師」として、次の各要素を備えた人物を求める。

- 学士課程の学びを通して大学院入学後の学校教育に関する高度な専門的知識を学ぶ基礎となる能力・技能・研究力を有する人。教職経験を通して実践知のある人
- 主体的に新しいことに挑戦し、学校教育の分野において社会に貢献しようとする意欲や態度を有する人。教職経験を通して反省的実践者として学び続ける意欲を有する人
- 明確な目的意識を持ち、他者と協働して学校教育の分野における課題解決に取り組む意欲や態度を有する人。教職経験を通して学校や教育実践に寄与するという意識を有する人
- 学問や研究に真摯に取り組む態度を有する人
- 基本的人権を擁護し、円滑なコミュニケーション能力を有する人

養成する教師像

学校改善マネジメントコース 現職教員 勤務経験10年程度、またはそれ以上を対象

これまでの経験を学校経営という観点から整理・意味づけを行い、新たな知識とミドルリーダーとしての力量を修得し、現任校をよりよい学校へと改善する中心的役割を担うことのできる教員を養成します。

スペシャリストコース 現職教員 勤務経験7年程度、またはそれ以上を対象

これまで教科や分野・領域の指導や実践的研究で修得してきた専門的知識や実践力をもとに、専門性を深めることにとどまらず、当該教科や分野・領域の知識・考え方を超えて、日常から未来に広がる学びを創り出す教員を育成します。

授業実践力向上コース 学部からの進学者

学部での学習を土台として、子ども理解と確かな知識に根差し、子どもや学校・地域の実態に応じた授業を計画・展開できる「確かな授業力」を主軸に子どもの学びをエンパワーする学習集団としての学級を育て、子ども・保護者・教職員から信頼される教員の養成を目指します。

特別支援教育コース 現職教員 | 学部からの進学者

現職教員及び学部からの進学者などを対象に、特別支援教育に関する理解を深め、障害など特別な配慮を必要とする児童生徒一人ひとりに応じた教育が行える実践力、特別な配慮を必要とする児童生徒の家庭の理解・支援を行うことができる資質能力を高めます。

皆さんの受験に際して、入試説明会・受験カウンセリングを実施します。 /

▶教職大学院を受験する皆さんを対象とした入試説明会及び受験カウンセリングを実施し、試験概要の説明や入学後のサポートを行っています。入試説明会・受験カウンセリングの詳細については、教職大学院のウェブサイトをご覧ください。
※なお、試験区分によっては受験カウンセリングを必須としていることがあります。詳しくは学生募集要項をご覧ください。

現職教員の皆さんへ 働きながらの学びをサポートします。 /

▶和歌山県教育委員会からの現職教員派遣により教職大学院へ入学した場合、前半の1年間は教職大学院において研究・履修に専念し、後半の1年間は在職校において勤務と教育実践研究を並行します。研究指導は、大学院教員を中心とした指導チームが現任校を訪問して行います。
▶和歌山県教育委員会からの現職教員派遣により入学した場合、授業料の減額措置があります。詳しくは、入試説明会・受験カウンセリング時にお知らせします。

教育職員免許状取得プログラムとは /

▶大学卒業時に中学校教諭1種免許状をお持ちの方で、新たに小学校教諭免許状の取得を希望する学生に対して、教育職員免許状取得プログラムを実施しています。なお、本プログラムの受講に際しては、3年以上の教職大学院への就学が必要となります。詳しくは、入試説明会・受験カウンセリング時にお知らせします。

●カリキュラムの科目区分と必要単位数

専攻共通科目 (主に1年次)	コース専門科目 (主に1年次)	実習科目 (1・2年次)	実習関連科目 (1・2年次)	合計
20単位	12単位	10単位	4単位	46単位

●授業科目一覧

専攻共通科目	※	…学校改善マネジメントコース・スペシャリストコース・授業実践力向上コース必修	…特別支援教育コース必修
教育課程・教材研究における今日的課題Ⅰ		学校と家庭との連携(特別支援教育)	必修
教育課程・教材研究における今日的課題Ⅱ	必修	特別支援教育と体制	必修 必修
教育課程・教材研究における今日的課題(特別支援教育)	必修	子どもの権利	必修 必修
問題行動と保護者との連携	必修	研究倫理と研究方法	

コース専門科目(注:コースによって選択できる科目は異なります)

学校と法	授業・教材研究Ⅲ	探究のための教材開発 —音楽表現と鑑賞	特別支援教育推進のための 関連機関との連携
学校組織と経営	学校・学級経営Ⅱ	探究のための教材開発 —体育の授業づくり	知的障害・発達障害のアセスメントとケーススタディ
教育と福祉の連携	理科実験(小)	探究のための教材開発 —言語感覚育成のための国語教材研究	知的障害児及び発達障害児の 学習指導
カリキュラムマネジメントの理論と実践	理科実験(中・高)	探究のための教材開発 —思考力育成のための国語教材研究	障害児の生理病理と臨床
学校におけるウェルビーイングの展望	理科教材開発(中・高)	探究のための教材開発 —基礎基本習得のための国語指導方法・教材研究	特別支援教育とコンサルテーション
授業研究の理論と実践	探究のための教材開発 —算数・数学のカリキュラム連携	探究のための教材開発 —地域の変化と持続性の探究	発達障害のある子どもの二次障害の 予防と対策
若手校内研修への支援	探究のための教材開発 —統計・データ活用	探究のための教材開発 —現代社会の成り立ち	特別支援教育の理念と現代的課題
小規模校支援	探究のための教材開発 —プログラミング	探究のための教材開発 —外国語コミュニケーション能力育成のための指導方法	
授業・教材研究Ⅰ	探究のための教材開発 —生活者視点の授業づくり	探究のための教材開発 —CLIL教材開発	
授業・教材研究Ⅱ	探究のための教材開発 —造形表現と鑑賞		

実習科目

学校改善マネジメント	スペシャリスト	授業実践力向上	特別支援教育
課題リサーチインターンシップ	課題リサーチインターンシップ	授業参加インターンシップ	課題リサーチインターンシップ
学校実践実習A	学校実践実習A	授業実践実習A	授業参加インターンシップ
学校実践実習B	学校実践実習B	授業実践実習B	学校実践実習A・B
先進校実習	先進校実習	小規模校実習	授業実践実習A・B

実習関連科目

課題分析	課題探究
------	------

●2年間のカレンダー

学生区分	クォーターⅠ		クォーターⅡ			クォーターⅢ			クォーターⅣ			
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年次	授業		授業			授業(11月は実習)			授業			
	実習		課題分析			※毎月、週に一回			※毎月、週に一回			
2年次	実習		授業			実習			授業			
	実習		報告書の作成			修了						

教職大学院では4学期制(クォーター制)を採用しています

▶教職大学院では、授業を短時間で集中的に受講することによる教育効果の向上を目指し、1科目の講義を週に2コマ実施する4学期制(クォーター制)を採用しています。学生にとって、一週間で学ぶべき学習領域が半減することにより、集中的に学ぶことによる教育効果が得られます。



共通科目の授業の様子



学部卒院生の実習



現職院生の実習指導(2年目)

●1年次の履修モデル

	月	火	水	木	金	土・日
午前 9:10-12:20	学校実習	全体ミーティング(研究進捗等の発表会)	専攻共通科目(全員受講)		専攻共通科目(全員受講)	原則お休みですが、研究会や発表会を開催する場合があります。
午後 13:10-18:00			コース専門科目	コース専門科目		

- 午前の授業は 専攻共通科目、午後の授業は コース専門科目 の履修が中心となります。
- 年間を通じて 学校実習 や 課題分析 (2年次は 課題探究)、授業時間外に授業レポートの作成、個々のテーマのリサーチ、指導教員からの個別指導等が入る場合があります。
- コースや研究テーマに応じて、月曜日の 学校実習 の時間を使って先進的な実践を行っている学校等にフィールドワークに行くこともあります。(主に学校改善マネジメントコース・スペシャリストコース)

スタッフ

中川 靖彦 NAKAGAWA Yasuhiko	専攻長・教授	生徒指導
岡崎 裕 OKAZAKI Yutaka	教授	教育方法学・教科教育法
菅 道子 KAN Michiko	教授	音楽科教育
木村 憲喜 KIMURA Noriyoshi	教授	物質環境化学
島津 俊之 SHIMAZU Toshiyuki	教授	人文地理学
添田 久美子 SOEDA Kumiko	教授	教育行政・教師教育
竹澤 大史 TAKEZAWA Taishi	教授	障害児心理学
辻本 和孝 TSUJIMOTO Kazunori	教授	学校経営・理科教育
寺川 剛央 TERAOKA Takao	教授	工芸
富田 晃彦 TOMITA Akihiko	教授	天文学
豊田 充崇 TOYODA Michitaka	教授	情報教育
二宮 衆一 NINOMIYA Shuichi	教授	教育方法学
村瀬 浩二 MURASE Koji	教授	身体教育学
村田 順子 MURATA Junko	教授	住居学

山崎 由可里 YAMAZAKI Yukari	教授	障害児教育学
尾上 利美 ONOE Toshimi	准教授	英語科教育
北山 秀隆 KITAYAMA Hidetaka	准教授	代数学
須佐 宏 SUSA Hiroshi	准教授	国語科教育
福永 徹 FUKUNAGA Toru	准教授	教育方法学・教科教育法
宮橋 小百合 MIYAHASHI Sayuri	准教授	教育課程・教育方法学
伊澤 真佐子 IZAWA Masako	特任教授	学校経営・道徳教育
桐山 知明 KIRIYAMA Tomoaki	特任教授	学校経営・教科教育法
南垣内 智宏 MINAMIGAITO Tomohiro	特任教授	学校経営・教科教育法
山下 真司 YAMASHITA Shinji	特任教授	学校経営
西村 充司 NISHIMURA Mitsuji	特任教授	附属小学校長・附属中学校長
植野 博之 UENO Hiroyuki	特任教授	附属特別支援学校校長

「教員採用試験への対策も充実」

キャリア支援

まだ教員採用試験に合格していない授業実践力向上コースと特別支援教育コースの学部卒院生のために、採用試験対策も充実しています。

① 教職キャリア支援室との連携

和歌山大学の進路支援の取り組みの1つである「教職キャリア支援室」では、校長経験者による個別面談、面接練習、小論文の添削等、院生の希望する自治体に応じて個別に支援を行っています。和歌山大学教育学部OBによる模擬面接や、試験対策講座も実施しています。

② 教職大学院での試験対策

担当指導教員による週1回のマンツーマンでの面談だけでなく、臨時個別相談に応じています。また、各院生の授業力の課題を見出すための「課題分析」の授業内で行う模擬授業は、採用試験の対策にもなっています。



現職教員に教材研究の相談



実務家教員による「良い授業」を体感



個別での相談も随時実施しています



模擬授業後の協議

1. 大学院に行こうと思った理由
2. 大学院で一番印象に残った授業
3. 大学院の学びで、今役に立っていると思うこと
4. 後輩へのアドバイス



授業実践力向上コース修了生
林 航輝さん
(和歌山市立藤戸小学校教諭)

1. 私は大学卒業を目前にしたとき、「このまま現場に出てやっていけるのかな」という不安を抱いていました。そんな時、大学のゼミの先生から教職大学院への進学を勧められ、和歌山大学教職大学院のパンフレットを目にし、授業づくりや教材研究等について学びたいと知り、教職大学院への進学を決意しました。

2. 週1回のインターンシップ実習や小規模校実習、和歌山県派遣の現職院生と共に学ぶ教材研究など、大学時代には経験できなかった、多方面からの学びがありました。何より印象に残っているのは、「授業実践実習A・B」です。教職大学院で学んだことを実習で生かし、自身の課題や改善点を見つけ、大学院に持ち帰りさらに試行錯誤を繰り返す、理論と実践の往還ができたことです。教職大学院での2年間の学びを通して、授業や学級経営に対する不安を払拭し、自分の引き出しを増やせたこと

で自信を持てるようになりました。

3. 授業や学級経営、生徒理解、生徒指導など教職大学院での学びすべてが、今役に立っています。初めて現場に出た際には、周りの先生方から、「1年目のなにごとよく落ち着いている」や「子どもたちとの関わり方がうまい」等と褒められ、教職大学院での経験が力になっていると実感できる場面が多々ありました。また、様々な校種の同期の仲間ができ、県内の現職院生とのつながりを広めることができ、教職大学院に来てよかったと思えました。

4. 「楽しむ・メリハリ」、これが私の原点です。教材研究や学級経営、授業実践実習など忙しい日々を送っていると思いますが、すべて全力で楽しむこと、そしてたまには息抜きをするなどメリハリをつけることが大切になります。教職大学院で努力した経験は必ず現場で、自分の力として形になります。今は何事も全力で取り組み、様々なことに挑戦してください。そして楽しんでください。



学校改善マネジメントコース修了生
坂本 和優さん
(和歌山市立名草小学校教諭)

1. 教諭をしていると、自分のクラスしか見えなけれど、学校改善マネジメントコースだったら学校全体の視点で、授業だけでなく、学校安全や組織のことなど管理職が見る目線で学べたのが進学理由です。周りに大学院を修了したことがある先生も数名おられて、困ったときは話を聞ける環境だったのも大きかったです。また、ちょうど家族との時間を取りたい時期でもあったので、タイミングがよかったこともあります。

2. 一番の学びになったのは、算数の授業（探究のための教材開発―算数・数学のカリキュラム連携）で、学校現場で活かせる内容でした。現任校が算数の研究校だったので、算数・数学について専門的に学べたのが大きかったです。「授業研究の理論と実践」では、授業研究についての歴史的な流れを学べたのも、現場では学べない内容だったので印象に残っています。児童相談

所等の施設見学に行けたのもよかったです。

3. 研究を進めていくにあたって、算数の教材研究のための部屋を校内に設置したり、教材一覧表を整理したり、何かしら学校に貢献できたことが、大学院の学びを還元できたと思っています。学校の先生方にも協力してもらって、研究を学校の改善に結びつけることができたのが大きいです。またご指導いただいた大学の先生とは、今も算数教育の研究会でつながっていて、いい縁がいただけたと思っています。

4. 進学を迷っているならぜひ行ってみたいと思います。学校現場にいてはわからないことも学べるのがいいところだと思います。教科をしっかり勉強したい人はスペシャリストコースに行くとありますが、教科も勉強したいし、学校全体の運営や組織のことも考えたいという人には学校改善マネジメントコースをおすすめします。スペシャリストコースじゃなくても教科についても勉強できます。



スペシャリストコース修了生
新谷 麻里さん
(和歌山市立西浜中学校教諭)

1. もっと勉強してみたいという気持ちが大きかったです。授業のこととか仕組みとかもっと知りたいなと思っていました。教員の経験を積んだ上で学び直してみたいと思うことが多くありました。また、同じ職場に、大学院に行ったことがあるベテランの先生がおられたので、和歌山県の教員派遣という制度があるということを知っていたことも大きかったです。

2. いろいろ授業を見に行くことができたので非常に楽しかったです。印象に残っている授業はいろいろあるけど、「教育と福祉の連携」の授業で、児童相談所とかを見学し、現場の話を聞いたり子供の様子を見たりできたことが一番です。また小学校の授業を参観する機会もあり、他の院生の取り組みを聞いて、中学校と全然違うなとか、謎だったことがつながりました。小・中の教科担任と学級担任の仕組みの違いを感じたりできました。院生同士で話し合いながら授業が受けられたのがよかったです。

3. 文科省の通知等をきちんと確認するようになった点です。例えば、職場体験とか指導案をつくる時とかに、文科省は何を意図しているのかなと確認するようになった。今まであやふやで済ませていたことを、根拠を調べるようになって、それが自分の自信につながるようになった。学校改善マネジメントコースの授業も受けたので、知っているつもりでいたけど、学校の仕組みを俯瞰して見えるようになった。現場から離れて外から見る経験もよかったと思っています。あと、生成AIとかGoogleフォーム等を使えるようになったので、お知らせをつくるのが簡単になって、事務的な仕事の軽減につながりました。

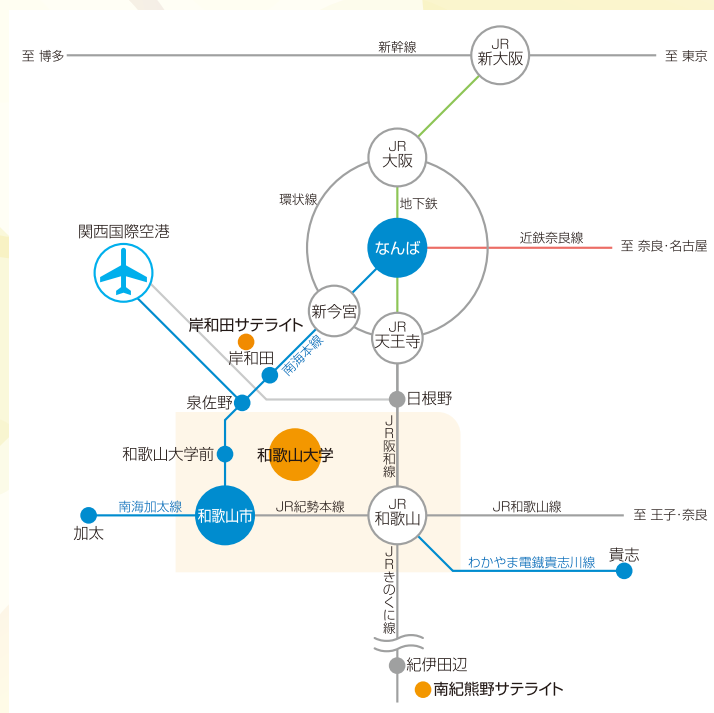
4. 人といっぱい話すことをおすすめします。同期の現職院生も、学部卒院生もそうだし、教授陣とも話すといいと思います。学校外のつながりができるのは貴重な機会だし、新しい視点をいっぱいもらえました。もし大学院を希望されているなら、ぜひトライしてみてくださいと伝えたい。しんどいこともあったけど、何とかなったし、行ってよかった。感覚でやっていたことを体系的にやれて、アンケートとって成果を見るとか、現場にいるとやりっぱなしが多けれど、大学院なら最後まで整理する機会になります。



ポートフォリオ

名 称	和歌山大学大学院教育学研究科教職開発専攻
課 程	専門職学位課程（教職大学院）
修了年限	2年（但し、授業実践力向上コースで教育職員免許状取得プログラムを選択する者は原則3年以上）
修了要件	本研究科に2年以上在学し、教職開発専攻で定めた修了認定に必要な授業科目46単以上を修得した者
取得できる学位	教職修士（専門職）（Master of Education for Professional Development）
取得できる教育職員免許状	学校改善マネジメントコース・スペシャリストコース・授業実践力向上コース：小学校教諭専修免許状・中学校教諭専修免許状（各教科）・高等学校教諭専修免許状（各教科）／特別支援教育コース：特別支援学校教諭専修免許状（知・肢・病） ※それぞれ対応する1種免許状が必要です。

● 電車でのアクセスマップ



● アクセスマップ



南海「和歌山大学前」駅から和歌山バスで約4分
 南海「和歌山市」駅から和歌山バス(6番・7番乗場)で約20分
 JR「和歌山」駅から和歌山バス(4番乗場)で約30分

● お問い合わせ

和歌山大学大学院教育学研究科教職開発専攻（教職大学院）

Add. 〒640-8510 和歌山県和歌山市柴谷930

Tel. 073-457-7537



Mail. ksdinfo@ml.edu.wakayama-u.ac.jp

Web. <https://www.wakayama-u.ac.jp/edu/pde/>

